第２節　群馬県の環境の現状

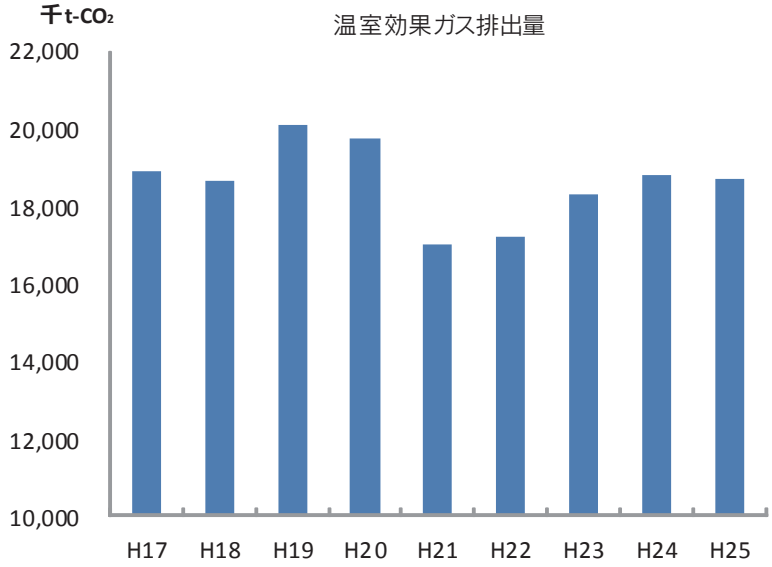
本県は、東西約96km、南北約119km、総面積約6,362km²の県土を有し、海抜12m程度から2,500m超までの変化に富んだ地形の中に、森林や利根川に代表される多くの河川、湖沼などが存在する豊かな自然に恵まれた県土を有しています。

このような県土の上に、多くの動植物により多様な生態系が形づくられ、またそこに暮らす人びとは、環境との調和を図りながら生活を営み、産業や文化を育んできました。

群馬県の環境の現状は、次のとおりです。

❶ 温室効果ガス

県内の温室効果ガス排出量は18,699千t-CO_2（平成25(2013)年度データ）となり、平成24(2012)年度に比べ0.7ポイント減少しました。前年度と比べて排出量が減少した要因は、電力消費量の減少等が挙げられます。なお、電力排出係数が上昇しましたが、それ以上に電力消費量の減少が見られます。



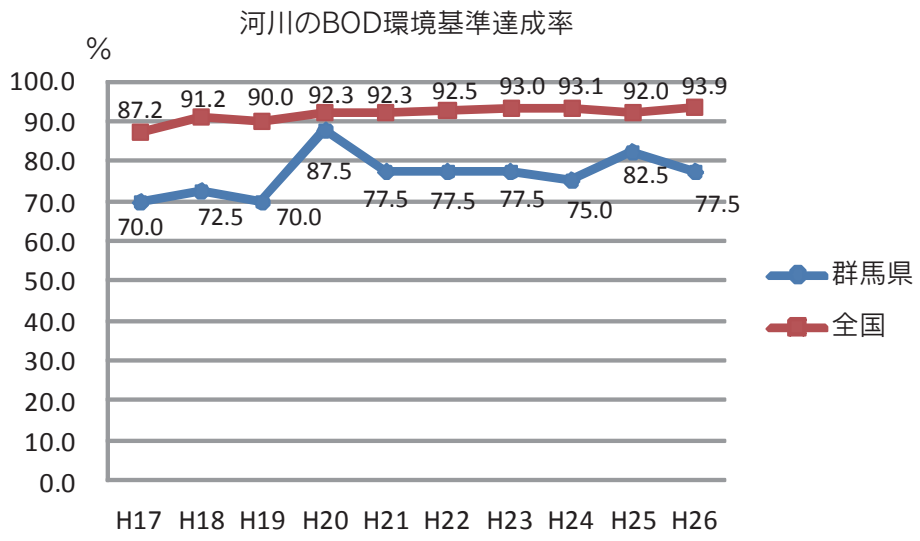
（資料：環境エネルギー課）

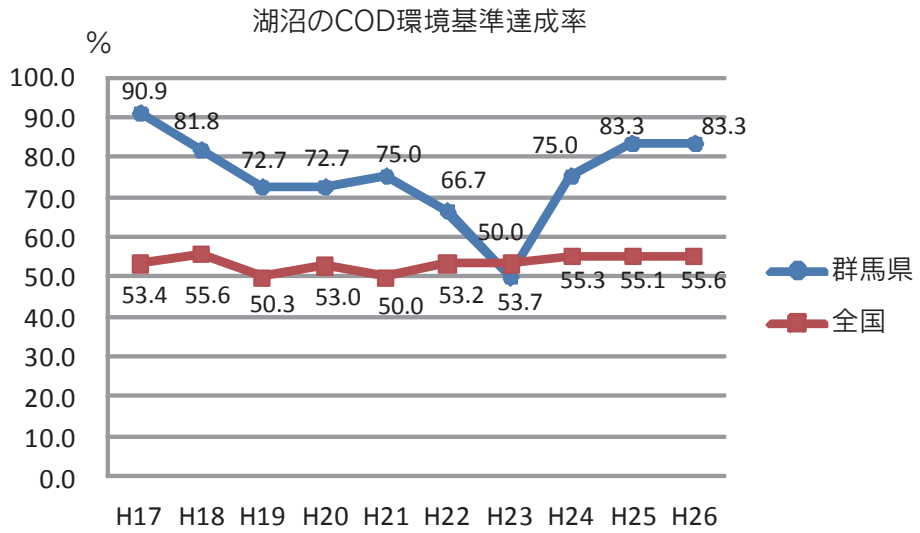
❷ 水質

平成26(2014)年度の河川におけるＢＯＤの環境基準達成率は平成25(2013)年度から５ポイント下がって77.5%でしたが、平成21(2009)年度以降は横ばい傾向です。依然、全国平均93.9%（平成26(2014)年度）と比較すると低い状況です。

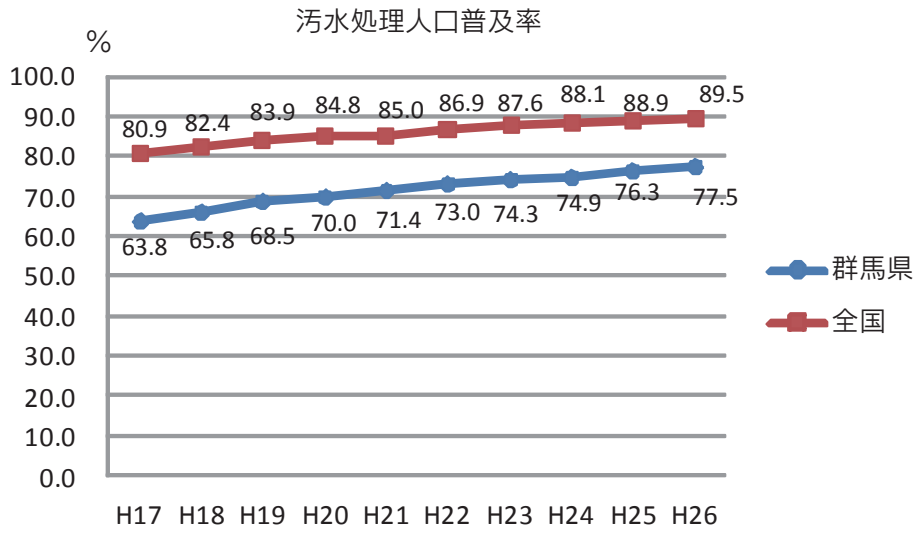
また、湖沼におけるＣＯＤの環境基準達成率は83.3%で平成25(2013)年度と変わりませんでした。平成23(2011)年度は、一時的に達成率が低下して50.0%となりましたが、以降は改善傾向にあり、全国平均55.6%（平成26(2014)年度）を大幅に上回っています。

同じく汚水処理人口普及率は77.5%で、改善傾向にありますが、全国平均89.5%（平成26(2014)年度）を大きく下回っています。





（資料：環境保全課）

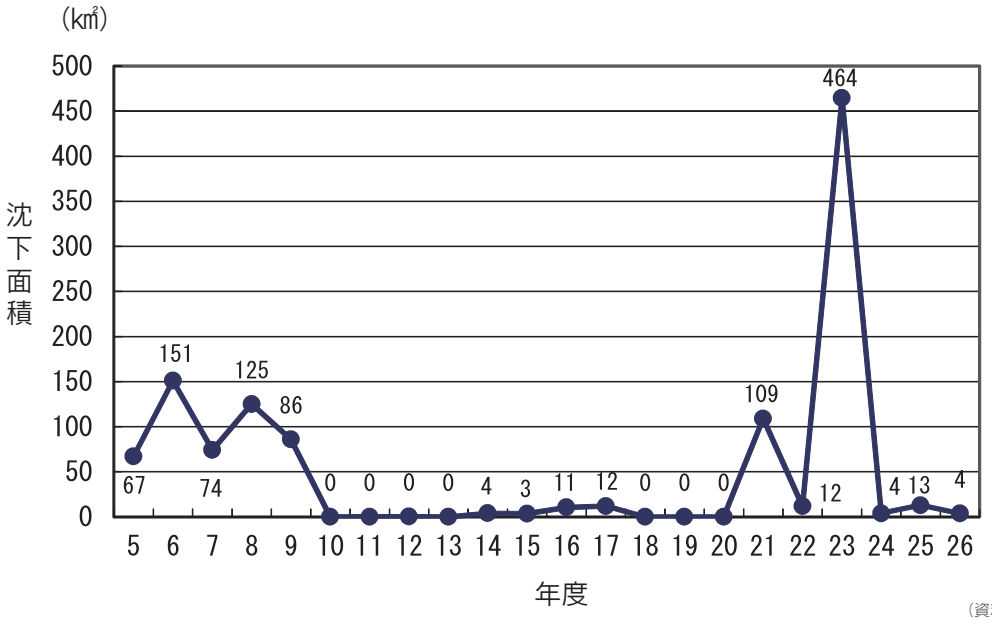


（資料：下水環境課）

③ 地盤

平成23(2011)年３月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動影響で大幅な地盤沈下が発生しましたが、平成24(2012)年から平成26(2014)年までの間では地震前の傾向と同様に、地盤沈下の注意が必要となる20mm以上の沈下はありません。

年間10mm以上の地盤沈下面積の推移



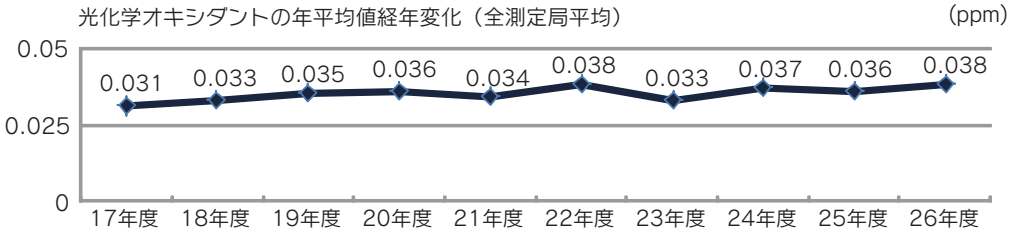
(資料:環境保全課)

④ 大気

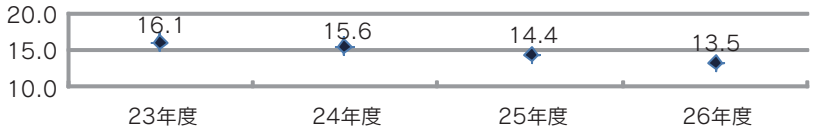
光化学オキシダントは昭和48(1973)年の測定開始以来、環境基準を達成したことがなく、毎年注意報が発令されています。平成26(2014)年度は10日発令されました。全国的にも同様の傾向となっています。

平成23(2011)年度から測定を開始した微小粒子状物質(PM2.5)は、平成26(2014)年度で10測定局中６測定局で環境基準を達成しました。一方、浮遊粒子状物質(SPM)などの項目については、平成26(2014)年度も環境基準達成率100%を維持しています。

光化学オキシダントの年平均値経年変化（全測定局平均）



微小粒子状物質の年平均値経年変化（全測定局平均）



※23、24年度は前橋局の年平均値、25年度は前橋・太田・沼田局の各年平均値の平均値、26年度は前橋・太田・沼田・館林・桐生・吾妻・嬬恋局(全局)の各年平均値の平均値です。

(資料:環境保全課)